



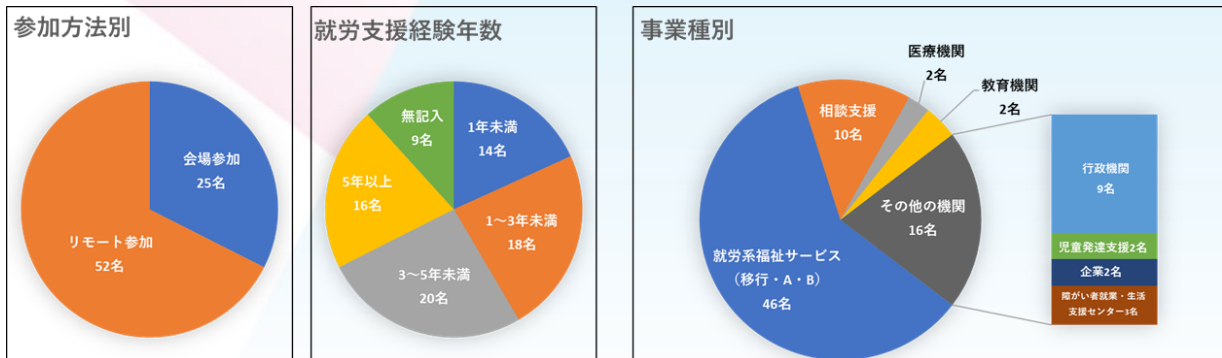
# ～就労支援にかかわる方々へ～ グローバル研修

終了報告

令和 3 年 8 月 25 日

本研修は 2 部構成で行い、第 1 部の基礎講座、第 2 部の実践講座ともに、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構北海道支部 北海道障害者職業センター 一井仁志氏を講師に迎え、研修を進めてまいりました。

当日は会場・リモート参加を合わせて 77 名の方々にご参加いただき、座学に加えてケーススタディやグループワークを通じて、学びを深めました。



以下、当日の研修の様子をお伝えします。

## 第 1 部 〈基礎講座〉

「就労支援のプロセス」では、インテーク～アセスメント～プランニングの流れや具体的な方法とその要点、重要性について学びました。次に「精神障がいの職業的課題と支援のポイント」では、いくつかの精神疾患の症状と職業的課題を確認しました。最後に「関係機関との連携から支援をすすめた事例のケーススタディ」を行いました。各支援機関でチームを組んで就労支援をする際に、それぞれがどのような役割を担い、互いに情報提供するタイミング等が講義の中で話されました。

特に就労支援経験の浅い参加者の方にとっては、これから支援対象者との関わりや他機関連携を進めていく上でイメージを具体的にする一助となり、中堅層の方にとっても日々の実践と講義の内容を照らし合わせ、その手順や意義等を再確認する機会になったのではないのでしょうか。

## 第 2 部 〈実践講座〉

初めて障がい者雇用に取り組む企業との支援事例について、企業が抱える悩みや課題、障がい者雇用に関する考えをどのように聞き取るか、業務スケジュールの検討と提案を要望された場合を想定し、グループワークとロールプレイを通じて学びを深めました。

グループワークでは、どうしても雇用されるご本人寄りの提案になってしまったり、企業が考える仕事の優先順位の確認や折り合える点を調整せずに話を進めようとした様子が見られました。

雇用や職場への定着をすすめる際には、雇用されるご本人だけでなく企業も支援対象であり、双方の課題解決に向けたサポートを行う必要があります。支援対象者と企業のどちらに寄り過ぎることもなく、第三者的な視点を持って関わることの大切さを知ることができました。

## 研修を終えて…

昨年度から定期開催している就労移行支援事業所連絡会や、十勝管内の関係機関を訪問させて頂く中で、「就労支援を知るため・共通認識を持つために、同一地域で統一された学びの場があると良い」「就労支援のプロセスや他機関連携に関する学びの機会が欲しい」等の声が聞かれました。そこで皆様のニーズに沿い、就労支援に特化した、他事業所・他職種が一同に介して実践形式で学べる機会になることをコンセプトに、本研修を企画いたしました。研修名を“グローアップ”と銘を打った意図は、普段の業務内容や支援対象者・地域柄に差はあれど、『就労支援に熱心な想いをを持った関係者同士と一緒に成長し、目の前にいる支援対象者に効果的な支援として還元できるようにしたい』という事務局側の想いを込めたものになります。

今回の研修を終え、皆様から寄せられたアンケートを拝見すると、研修の中で就労支援のプロセスや連携事例に触れることで、改めて普段の支援場面において踏襲的・感覚的になってしまっていることを振り返る機会になったこと、他事業所・他職種間でのグループワークを通じて様々な視点の共有や気づきがあったこと等がうかがえました。また、障がい種別の事例を知りたい、もっと具体的な事例を出して欲しい等の意見も同時に寄せられており、機会を見て検討させていただきたいと想います。

これからも十勝管内の皆さまと就労支援の現状と想いを共有しながら、就労支援の充実と地域づくりのために活動して参りたいと思います。今後ともよろしくお願いたします。

担当：荻原・増田

※寄せられたアンケートの内容を一部まとめ、[研修案内・報告] ページに掲載しております。

ご興味のある方はご覧ください。

下部の [グローアップ研修アンケート] をクリックしてもご覧いただけます。

[グローアップ研修アンケート](#)